

2月 4～6日 7年目を迎えた美郷町交流



天筆焼きや雪上運動会、餅つきなどで千畑地区の人々と交流した志筑小の4年生

江戸時代に奥州千畑地区（現秋田県美郷町）出身の本堂公が、現在の志筑小学校の敷地に陣屋を構えていたことを縁に始まった交流事業も7年を迎えました。今年も、志筑小児童が千畑地区を訪れ、歓迎を受けました。

2月 4日 コカ・コーラと災害協定



協定を取り交わす柴康裕 茨城支社長(左)と市長

市は、「災害時における救援物資の提供に関する協定」を利根コカ・コーラボトリング(株)と締結。災害時に市の要請で、市に設置してある災害対応型自動販売機内の商品の無償提供と飲料水の優先的提供を受けるものです。

2月 7日 青年と市民懇談会



コーソー経営研究所の後久博さんによる講演の後、懇談する参加者

市民と行政が協力して役割と責任を分担し、地域産業の打開策を考えようと、市民懇談会をあじさい館で開催。40代までの市内の商工農業関係者約30人が、「元氣な地域産業を目指して」をテーマに市長と意見を交わしました。

2月 6日 七草がゆに舌鼓



冬場の不足がちな栄養素を補う効果があるといわれる七草料理を楽しむ参加者

雪入山友の会の指導の下、雪入ふれあいの里公園で春の七草を摘み取り、旬の料理を楽しむイベントを開催しました。参加した20人は、七草がゆや一口などの木の芽の天ぷら料理に、一定早い春の訪れを体感しました。

2月 16日 やまゆり館で自衛消防訓練



消化器の使い方を訓練する参加者

とつさの「火災・怪我・事故」に役立ててもらおうと、やまゆり館で、自衛消防訓練を行いました。子育て中の母親など約100人が、消化器の使い方を勉強したり、子どもたちと消防車や救急車を見学し、自衛の意識を高めました。

2月 13・14日 夜の「いちご狩り」が盛況



チョコレートフォンデュでイチゴを楽しむ来園者

千代田果樹観光協会では、「いちご狩り」を楽しんで欲しいと「バレンタインスペシャルイベント」を企画。8時まで灯りが延びた、すすめっこ森に、2日で150人が来園し、もぎたてのイチゴを味わいました。

街のわだい TOWNS★TOPICS

2月 6日 寒風吹き飛ばす 市民のマラソンプワー



駅伝一般男子の部で優勝した 市消防署チームのアンカー

多目的運動広場で市民マラソン大会が開催され、マラソンと駅伝の部に計736人が参加しました。時折雪が交じる寒風吹きすさぶ中、たくさん応援者も来場。着ぐるみを着たり、チームのために必死に走る選手の寒さに勝る元気に、白熱した声援が飛び、会場は熱気に包まれました。

マラソン成績

【小学生男子 1・2・3年生の部】◎稲生輝彦(美並小)◎藤関泰成(新治小)◎岩井穂貴(新治小)、久保田直人(下稲吉小)【小学生女子 1・2・3年生の部】◎中島綾香(志筑小)◎長谷川七海(下稲吉小)◎鈴木ちひろ(下稲吉東小)【小学生男子 4・5・6年生の部】◎松原龍人(下稲吉東小)◎中島亮太(志筑小)◎藤崎士文(下稲吉東小)【小学生女子 4・5・6年生の部】◎鈴木琉菜(宍倉小)◎斎藤詩織(新治小)◎鈴木諒香(牛渡小)【中学生男子の部】◎児玉緋牙斗(南中)◎坪井優翼(下稲吉中)◎谷中直輝(南中)【中学生女子の部】◎柏原幸江(南中)◎遠藤つかさ(南中)◎斉藤花佳(南中)【一般男子の部】◎稲垣陽平◎三田村達也◎堀場安広【一般女子の部】◎小林あかり◎小西智子◎是松亜希

駅伝成績

【小学生男子の部】◎牛渡スポーツ少年団A◎美並エンジェルスA◎千代田ファイターズA【小学生女子の部】◎霞ヶ浦ソフトテニスクラブA◎シルバーラビット◎千代田フェニックスA【中学生男子の部】◎北中野球部1(北中)◎下中野球部C(下稲吉中)◎下中男卓A(下稲吉中)【中学生女子の部】◎北中女子テニスB(北中)◎下中女子テニスA(下稲吉中)◎北中女子テニスC(北中)【一般男子の部】◎かすみがうら市消防本部A◎kankijinドリームチーム◎走友会A

地域の高齢者を見守ります！40人が研修を修了

2月 5日

研修を終えて

高野きく(岩坪)

研修に当たり、一言お礼を申し上げます。4日間という短い日程で、実に中身の濃い研修をさせていただきました。スタッフの方々は、日常業務の合間を縫っての計画立案、講師の方への依頼、また資料作りと大変なご苦労をされたと思います。

私たちサポーターは、日常の中で自然な形でコミュニケーションを密にすることから始めなければならないという思いがしました。まず声を掛け合い挨拶を交わし、人間関係を築いていくことこそが役割だと思います。

そして、地域の方々が『私を見守っている人がある』という安心感で暮らせるような地域活動の輪を広げていきたいと思っています。

地域で高齢者を見守り支援できるよう、介護の知識や技術を身につける「生活・介護支援サポーター養成研修」を実施しました。これは、市が高齢者の生活を支えるシステムを構築すること、を目的とした、厚生労働省による新しい事業を活用したものです。



20時間に及ぶカリキュラムを終え、修了証が授与された研修生

2月

9日

佐賀小児童がワカサギ孵化・放流を体験



地元漁協の皆さんの協力の下
沖ノ内船溜りで体験する子どもたち

佐賀小5・6年生の41人がワカサギの人工孵化を体験しました。これは、佐賀地区公民館が、子どもに地元の産業や郷土を愛する心を育て、将来の後継者を育成しようと計画したもので、農業体験に続き2回目。

県霞ヶ浦北浦水産事務所の星野主任と地元漁業協同組合の漁師の方々を講師に迎え、人工授精の説明後、採卵、受精、卵の産卵床の付着作業を行いました。

「卵は一匹で何個産むのか」「寿命は何年ぐらいなのか」などと瞳を輝かせながら次々と質問する児童の熱心さに、指導に当たった漁師の方々も驚いた様子。

児童は、産卵床を学校に持ち帰り水温調整などに気をつけ、21日後の3月2日、とうとう孵化に成功し、4日に霞ヶ浦に稚魚を放流しました。

児童が書いた作文には、生命の尊さ、水産資源を増やす努力に気づいた感動が表れていました。



③ 学校の水槽で毎日観察し、みんなで見守りました



② 羽ぼうきで受精卵をシュロ皮の産卵床に付着させる



① 雌から卵をボールに採卵し、雄の精子をやさしく混ぜて受精させる

孵化するまで

2月

21日

佐賀大好き!! 歩く会



市民学芸員から江戸時代の算数問題が書かれた算額の説明を聞く参加者(田伏鹿島神社)

佐賀地区公民館では、地域の史跡などを巡る歩く会を開催。歩崎遊泳場跡や田伏小学校跡、樹齢400年の「田伏のなぎ」など、110人が約7キロメートルのコースを歩き、地元の自然と歴史を再認識しました。

自慢の花が勢ぞろい

2月

20日



出展された220点の中から、塚本泉美さん(中台)がかすみがうら市長賞に、圓城寺園子さん(栄倉)が茨城県農業総合センター長賞に表彰されました

当市が協賛する土浦市花の展覧会品評会が新治ショッピングセンター「さん・あびお」で開催されました。来場者は、即席のフラワーアレンジメント教室や花束の無料配布などで、美しい花と春の香りを楽しみました。

かすみがうら市の人口と世帯

平成22年3月1日現在

人口	44,131人
男	22,294人
女	21,837人
世帯	15,585世帯

皆さんの声をお聞かせください!

広報誌へのご意見・お気づきの点などをお寄せください。
メール・はがき・電話などいずれの方法でも結構です。

「広報かすみがうら」は、ホームページに掲載しているほか、市内の公共施設、コンビニや金融機関などにも設置しています。(一部のコンビニには設置されていないのでご理解をお願いします。)



広報誌は環境にやさしい大豆油インキを使用しています。